令和８年度第２回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

通常事業事前審査　議事録

日　　時：令和８年８月４日（火）　午後５時３０分から午後９時００分

場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

出席委員：大宮　康一（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、富田　宏、柴田　洋子、
谷本　陽子、有賀　秀雄
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事務局：瑞　浪　市　長　水野光二
みずなみ未来部長　加納宏樹

事務局職員：市民協働課長　奥谷ひとみ
まちづくり支援係長　吉田和史
まちづくり支援係　大髙まりあ

次　　第：１．市長あいさつ
２．委員長あいさつ
３．審査会の進行等についての説明
４．活動報告
５．閉会

【１　市長あいさつ】

本日はお忙しい中、委員の皆さんにはご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

この時期、毎週のように各地域の夏まつりへお招きいただいております。おかげさまで今年は天候に恵まれ、各地域で計画通りに盛大に開催されており、大変嬉しく思っております。特に、どのまちづくりを見ても、高校生や中学生、あるいは小学生がイベントの進行やスタッフとして協力してくれている点が非常に印象的です。かつてはスタッフ不足という課題もありましたが、子どもたちが加わることで、そうした問題も解決に向かっているのではないでしょうか。中学生たちがニコニコしながら地域の方々と一緒に活動している姿は、会場全体に活気を与えてくれています。今日の発表の中でも、そうした素晴らしい取り組みについて聞かせていただけるものと期待しております。

令和５年度に「地域計画」を策定し、それをベースにまちづくりの皆さんが計画を立て、実行に移していただいています。自分たちで課題を考え、目的や方法を明確にすることで、事業の内容もより深みのあるものになってきたと感じています。

本日は、皆さんがどのような発表をされるのか、審査員の先生方と一緒に楽しみにしております。ぜひ、適切なご指導をいただき、良いところはもちろん、厳しく評価すべきところは厳しくご指導いただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【２　委員長あいさつ】

連日の猛暑が続いておりましたが、今日は久しぶりに少し過ごしやすい気温となりました。先ほども「体が暑さに慣れていない」といった話をしておりましたが、比較的過ごしやすい日に皆様にお越しいただけて良かったと感じております。

本日は昨年度の事業のご報告となります。今年度はすでに４ヶ月経過しておりますが、昨年度の実績を踏まえつつ、皆様からのご助言やアドバイスを、ぜひ今年度の活動にも反映させていければと考えております。本日は活発なご意見、ご発言をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。限られた時間の中ではございますが、進行に気をつけながら進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【３　審査会の進め方等についての説明】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

〇委員

ベルが鳴るタイミングはいつか。

●事務局

発表は８分間となっており、７分経過した時点で１回、８分経過した時点で２回ベルを鳴らす。パソコン画面にタイマーを表示しており、８分経過後はカウントアップとなるため、意見交換の時間の参考としていただきたい。

【４　活動報告】

≪①各地区からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

○委員　あきよウォッチング事業

町民ウォーキングに力を入れられたことや、瑞浪の地産地消の食材を使われたことは、非常に良い試みだと感じた。経費について、「記念品」や「景品」と書きぶりが分かれているが、内容を説明していただきたい。

●明世

どんど焼きの来場記念品は、火を見に来た人にお餅やお菓子などを配るためのものである。わざわざ足を運んで来ていただいた方への謝意として、「来場記念品」として処理した。

一方、「消耗品（景品）」としているものは、今回の交付金を活用した地元還元の経費である。例えば、通常 1000 円のパンや蜂蜜などを 500 円で販売し、差額の 500 円を交付金で負担するという形をとった。その処理として「消耗品」の科目で計上しているが、本来は「食糧費」という表現の方が適切だったかもしれない。また、（景品）としたのはビンゴ大会の経費も含まれていたためであるが、項目は分けた方が適切であった。

○委員　青少年育成事業

青少年育成町民会議で出た意見などを、どのように今後の活動に生かしていくのか。

●明世

毎年、小・中・高校に対して「地域のために考えること」をテーマに、作文や発表をお願いしている。小学校は、例えば、ホタルについて教えていただいたことや、登下校時に朝晩見守りをしてくださる地域の方々への感謝の気持ちなどをテーマにした作文を毎年男女各 1 名に発表していただいている。中学校は、瑞浪北中学校が 5 地区統合の中学校となるが、各テーマに分かれてワークショップ形式で地域について議論している。町民会議の中では、明世地区をさらに良くし、活性化させるための提案をパワーポイントでまとめて発表していただいている。中京高校は、3 年前から取り組んでいる「耕作放棄地」や「地域活性化活動」をテーマに活動しており、今年はどんぐり工房とも連携し、「日本一美味しいコロッケを作ろう」という話のもと、ネギやジャガイモが作れる土地を提供し、一緒に活動を行っている。このように、3 つの学校いずれも地域の活動に繋がる統一したテーマで取り組んでいただいている。我々が取り組んでいる身近な地域活動と合致する内容をいつも発表していただけるため、大変参考になっている。

○委員

変更があった点について、改めて整理していただきたい。

●明世

実績と計画が異なる事業についてはすべて変更申請書を提出し、トータルで 111 万円の範囲内で予算

の調整を行った。7 事業のうち、あきよウォッチング事業、ホタル育成事業、明世ホタルの里“福”鑑賞会の 3 事業について変更申請を出している。

〇委員　あきよウォッチング事業

ノルディックウォーキングを継続して実施しているが、参加者が減り始めている傾向がある。この点についての改善策をどのように考えているか。

●明世

前回の審査会で委員さんから新たな提案をいただいた。面白いと感じているものの、現在参加している高齢層にはまだ浸透しにくいため、時間をかけて取り組んでいく。また、6 年前に購入した道具（約 40 人分）が十分に有効活用されていない現状があり、新しいものに手を出す段階には至っていない。今後、状況を見ながら取り入れを検討したい。

〇委員

これらすべての取り組みが「地域づくり」に繋がっていると思うが、明世町として、現在の取り組みがどのように地域に生きており、自分たちでどのような評価をされているかお聞かせいただきたい。

●明世

明世地区は地区数が少ないため、比較的まとまりやすい地域性を持っているものの、これまで各地区が個別に活動し、小さな単位でもバラバラだった。しかし、地域計画の策定をきっかけに、「三区でまとまろう」という機運が高まっていると感じている。合同イベントを実施する際、2 年目である今年は区長会からの理解も得られており、前向きな雰囲気になってきている。

＜市長コメント＞

ホタル NIGHT について、昨年は大盛況で 7,000～8,000 人の人出であったが、今年は土砂降りの中での開催となった。野外イベントは天候に大きく左右されることを改めて痛感したが、野外コンサートを急遽屋内へ移動させるなど柔軟に対応し、非常に素晴らしいコンサートであったと感じている。来年はぜひ、屋外で実施できるタイミングについて協議してほしい。

また、当初の明世地区は、区長会とまちづくり推進協議会の歯車が噛み合わない状況もあったが、現在は、区長会とまちづくり組織の連携がしっかりと取れるようになっており、これはこれまでの取り組みによる大きな成果であると言える。今後さらに明世地区をまとめ上げ、次のステップへつなげていただきたい。

陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下「陶」）

〇委員　防災減災セーフティーネット事業　文化振興事業

「防災探検隊」は、子どもたちが危険個所を肌で感じられる大変良い取り組みである。調査結果のマップ化や発表など、次につながる展開ができたのか伺いたい。

また、陶地区には世界一の狛犬や茶壺などの素晴らしい史跡・文化がある。JR の「さわやかウォーキング」のルート設定は難しいかもしれないが、地域資源を活かした観光振興やアピール方法をぜひ検討してほしい。

●陶

防災探検隊では、企業の力も活用し気づきや写真撮影を行ったものをパソコンにまとめたが、地域へのアウトプットの場が不足していたため、来年度に向けて検討する。

また、観光資源の活用として、若手主体による「陶町トレイルラン大会」の開催に向けたコース選定を計画しており、順調にいけば来年度に報告できる予定である。

○委員　交流人口拡大事業

交流人口拡大事業は数字として成果が現れている。6 月の少年の主張大会で、陶小の児童が「陶一周駅伝」への支援を訴えていた。彼女の思いのためにも、ボランティア等に声をかけながら駅伝をぜひ継続してほしい。

●陶

中学校や高校の生徒が、ふれあい広場や駅伝、どんど焼きなどに何十人もボランティアとして参加し、ゲームの手伝いなどをしてくれるため大変助かっている。今後もぜひ続けてほしい。

○委員　環境美化事業

子どもたちが親の働く姿を見る機会が減る中、花植えなどの活動を通じて、大人との自然な会話から働くことの大切さや厳しさを学べるのは大変ありがたい。こうした経験が、将来の地域リーダーを育成することにつながるのではないか。高校生などが参加できる場を積極的に設けることが重要である。中日新聞に掲載されていた、子どもたちが主体的に舞台へ参加し始めている郡上おどり・白鳥おどりの事例は、大いに参考になる。

＜市長コメント＞

昨年の審査員のアドバイスを早速取り入れて環境美化事業を改善された点について、こうした柔軟な対応は、来年で 40 年を迎える、歴史あるまちづくりにとって大変素晴らしいことだと感じている

また、会長もおっしゃったように、陶町は企画次第で町外、市外の方々にも集まっていただけると考える。陶町も協力している小里川の湖周ウォーキングは、現在、半数以上が名古屋など市外の方々が参加するイベントになっている。これと同様に、地域の資源を活かした取り組みをぜひ企画していただきたいというのが私からの願いである。

また、新聞記事（お囃子に関する話題）について言及があったが、もともと陶町のお囃子は非常に素晴らしいものであった。かつては公民館に子どもたちが集まって練習し、祭りの当日には見事な演奏を見せてくれるという伝統があった。しかし、昨今の少子化により、お囃子に参加する子どもが集まらなくなり、一番のメインイベントであった子ども囃子が維持できない状態になってしまっているのは非常に残念であり、陶町のこれからの大きな課題であると考えている。子どもたちを育成するためにも、少なくなった子どもたちをより巻き込み、将来も陶町に定住し続けてもらえるような人材育成につなげていくのかということも重要なテーマである。ぜひ今後も頑張っていただきたい。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下「瑞浪」）

○委員　安心安全なまちづくり事業

普通救命講習と健康講演会について、それぞれ参加者が 24 名とある。大きな地区であるが、開催場所は地区内を回って実施しているのだろうか。

●瑞浪

救急救命講座は 2 日間とも消防本部（消防署）で実施しており、健康講演会は市役所西分庁舎で行っている。近隣でよく似た事業が行われるようになったこともあり、出席者は少なくなっているため、別の内容に転換してもよいのではないかと考えている。

○委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業

「公民館使用料 2 万円」が計上されているが、市民の感覚からすると、地域の公民館利用時は数百円程度のイメージがある。この 2 万円というのは一般的な相場なのだろうか。行事によっては減免される仕組みもある。

●瑞浪

少し高いと思われるかもしれないが、芋ほり大会などで多くの親子が来訪した際にトイレを使用させてもらうことがメインであるため、そのお礼（謝礼）としてこの金額で出させていただいている。あえて減免申請はせず、地域への還元としてこのように対応している。以前、別の場所でトイレをお借りした際に壊してしまったこともあり、地域と良好な関係を保ちながら進めるようにしている。

○委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業

「タープの張り方指導謝礼 2 万円」と「上山田お堂使用料 2 万円」についてはどのようか。

●瑞浪

お堂の使用料についても、トイレをお借りしているためである。また、タープの張り方指導については、小川テントのスタッフに来ていただいた謝礼となる。ただし、小川テントはイオンモールから撤退してしまったため、今後はこの実施が難しくなる。

○委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業　潤いのあるまちづくり事業

芋ほりについて、1 位から 10 位まで重さを競って表彰されたというのは大変良い企画だと感じた。景品などはあったのか。

また、さくらさくらのさんぽみちでの「バブルパフォーマンス」について、20 年ほど前に橋のあたりで屋台が出ていた記憶があるが、現在はどうか。もし出ていないのであれば、瑞浪市駅前のようにキッチンカーを呼ぶことができれば、子どもも大人も楽しみが倍増するのではないか。

●瑞浪

芋ほりの景品にはバローの商品券を出しており、お母さんたちにも喜ばれている。

飲食店の出店については、地元の飲食店がお店を出しているものの、私どもは直接関わっていない。実施場所もバブルの会場とは少し離れており、どちらかといえば大人向けである。今後キッチンカーを呼ぶことも検討の余地はあるが、例えばキッチンカーが出店しているホタル観賞会では多くの人が来て非常に賑わう一方で、「花より団子」のような、少し違うお祭りになってしまう懸念もあるため、そのあたりのバランスは考えていきたい。

＜市長コメント＞

「さくらさくらのさんぽみち」に対して非常に高い評価をいただき、ありがたい。この事業は、さくらまつり実行委員会が長年にわたり手掛けていたものであったが、高齢化や寄付が集まらないといった事情で行き詰まりかけていた。そうした状況の中、会長をはじめとするまちづくり推進協議会が応援に入り、今回のような素晴らしい企画へと発展させたものである。実施場所は最高のロケーションであり、単に飲食をしながら桜を見るだけではなく、子どもたちも参加できるような企画を取り入れたのは非常に良いアイデアであったと感じている。明世地区の「ホタル NIGHT」などの成功事例をこちらに応用された面もあるかと思うが、それぞれにテーマを考え、戦略的に様々な事業を展開している点はさすがである。ぜひ、今後もさらに取り組みを高めていただきたい。

明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下「稲津」）

〇委員　環境保全事業

大変多くの方が訪れる大切な財産であり、皆様がご苦労されて管理されていることと思う。環境保全について、市外や県外の人が募金などで貢献したり、外部から整備に携わったりする仕組みは今後必要と考えているか。

●稲津

整備事業については、例えば屏風山黒の田湿地の保全ボランティアや、「小里城顕彰会」などが、30ある協力団体の中に入っていただいている。区長会や地区のまちづくり推進委員のほかに、こうしたボランティアの方々も参画しているところである。

「いいなっつ農園」に関して、今年は新しい試みとして、農園に苗植えをしてくれた子どもたちや家族に声をかけたところ、今年は 150 人に近い方が整備事業に関わっていただいた。さらに、稲津町内にある老人福祉施設「ひざし」から、地域貢献の一環として「いいなっつ農園の協力に参加させてほしい」との申し出があり、毎年 10 人弱ほどの方がお手伝いに来てくれている状況である。多くの方に足を運んでいただき、苗の生育状況や農園の管理状況も含めて見ていただきたいという思いがある。現時点では他地区の方に関わっていただく仕組みは特に考えていないが、様々な形で支援をいただいている。

〇委員　文化・芸術・スポーツ推進事業　まちづくり情報発信事業

「ウェルカムスプリングコンサート」の報償金が 15 万 8,800 円とあるが、プロの方にお願いしているためにこれくらいの金額がかかっているのか。

また、子どもたちからの地域への提言を踏まえてクイズを実施したとあるが、子どもたちのリーダーがボランティアで熱心に取り組んでいることがよく分かる。このクイズに関する報償費が 1 万 400 円とあるが、使用用途はどのようか。また、クイズの正解者に対して景品の発送などを行えば、「応募してみよう」という興味や意欲がさらに高まるのではないかと思うが、そうした活用方法についての検討状況はどのようか。

●稲津

スプリングコンサートについては、毎年どのような演者にするかを事務局とともに検討して開催している。昨年は、小泉八雲の世界や朝ドラをテーマにした企画で、中山尚子氏にお越しいただいたほか、加藤純子氏のオリジナル演劇なども交えた二部構成で実施した。プロフェッショナルであるかどうかは

別として、講演活動を広く行っている方々にお願いしており、来場者数や事前準備の状況などによって予算が変動する。なお、同じ文化芸術スポーツ推進事業で行った年末コンサートでは、瑞浪市市民交響楽団の方々に初めて出演していただいた。

まちづくり新聞に掲載しているクイズについて、応募していただいた正解者の中から、毎月 1 回開催している理事会において抽選を行い、5 名の方に 1,000 円分のクオカードを進呈している。クイズの問題作成については、当初から関係者に出してもらうようお願いしているものの、なかなか集まりにくい状況もあり、現在は事務局とスタッフで検討を進めている。もともとは「稲津町をもっと知ってほしい」という思いからスタートした企画であるため、より多くの方に知ってもらい応募を増やすためにも、今後は中学生や小学校高学年への参加呼びかけも含めて検討を深めていきたい。

＜市長コメント＞

毎年の講評になるが、稲津町は様々な取り組みにおいて多くの団体をうまく巻き込みながら進めており、非常にスムーズに展開できていると感じている。

また、町内に音楽の演奏家、芸術家、歌の上手な方など、多彩で優れた人材がたくさんいらっしゃり、そうした方々をうまく発掘して行事に参加していただいている点も稲津町の強みである。私自身も色々な行事に招待いただくが、どのイベントに参加しても本当に楽しいものばかりである。ぜひ今年度、来年度も引き続き頑張っていただきたい。

土岐地区まちづくり推進協議会（以下「土岐」）

〇委員　草刈り機教室事業　地域防災力強化事業

草刈り教室の発展についてどのように考えているか伺いたい。先ほど 38 件の草刈り機の貸し出しがあったという非常に良い傾向を聞いたが、草刈りはどこも人手不足の状況である。今後、活動エリアをさらに広げていくことについてどのように考えているか。

また、防災に力を入れて取り組まれたとのことだが、事業成果の中で「子どもたちが参加して気づきを得た」という表現があり大変ありがたく感じた。まちづくり事業を行う上では、どのような人に育ってもらいたいかという育成の背景があると思うが、そうしたまちづくりにつながるような手応えや成果をほかに感じられたことがあれば教えてほしい。

●土岐

草刈り事業については、今年度は土岐地区だけでなく、北中学校区の方にも呼びかけている。北中学校区から教室に参加したいという方が増え、自分たちの地元で活動してもらえるよう期待している。

また、非常食の取り組みを通じて、今まで気づいていなかった子どもの好みが分かり、親御さんにとっても備蓄に対する良い参考になったと考えている。

〇委員　地域防災力強化事業

熊本の震災以降、防災への関心は非常に高まっている。地震だけでなく豪雨や土砂災害など様々な災害が想定される中で、今後の取り組みにおいては、参加者がどのような防災活動や情報に興味関心を持っているのかを客観的に示すデータに基づいて事業展開していくことも必要ではないかと思う。

●土岐

部会の中で、熊本の被災地において大変な思いをされている避難所について一度取り上げてはどうかという話が出ており、特に現在関心が高いテーマであるため、今年度そちらの計画も進めているところである。

○委員　トレジャーウォーキング事業　広報発行事業

「トレジャーウォーキング」事業について、積雪のために中止となったが、様々な準備をされたことと思う。令和８年度も実施予定とのことだが、代替案や時期変更の検討はしているか。１月に実施すると今回と同様に雪で中止になる懸念があるため、時期の変更についても検討してはどうか。

また、広報紙「ときめき」は地域安全活動などのPRにもつながり、非常に意義のある広報紙だと感じている。課題として「未入会（自治会未加入）の方への配布ができないこと」が挙げられていたが、まちづくり協議会単体では難しい部分もあるため、区長会などの応援を仰ぐといったアピールについてどのように考えているか。

●土岐

「ときめき」の未加入者への配布の件については、現在、土岐小学校と協議を進めている。コミュニティ・スクールの関係もあり、学校の情報配信アプリの中で「ときめき」を載せられないかとの提案をいただき、現在その準備を進めている。本来は８月号から実施したかったが、ファイルサイズが100MBを超えるなど非常に大きくなったため、どの程度のファイル容量や配信方法が適しているか調整しつつ、今年度中の実現に向けて進めている。

トレジャーウォーキングの代替案については、現在部会で検討中であり、現時点で詳細を説明することはできない。また開催時期については、部会長が店舗を経営しており自身の都合がこの時期にしか動けないという事情があるため、どうしても１月での開催となっている。

○委員　草刈り機教室事業

草刈り教室について、回を重ねるごとに多くの受講生が参加し展開されているが、当初の目標の一つであった「女性の地域活動への参画」に関して伺いたい。草刈り自体の活動には多くの方が参加していると思うが、この教室をきっかけとして、草刈り以外の地域活動への参画状況に広がりや増加は見られるか。

●土岐

現在は草刈りの活動自体に手いっぱいの状況であり、現時点では他活動との連携や広がりまでは十分に把握・構築できていない。

＜市長コメント＞

様々な取り組みをご発表いただいた。「トレジャーウォーキング事業」については、比較的大きな予算を計画されていた事業であっただけに、何とか実施していただきたかったと感じている。開催できれば非常に盛り上がったのではないかと想定していた。主催者や中心人物の都合もあるかもしれないが、開催時期や体制については工夫が必要ではないかと感じる。１月は寒さもあり様々な懸念があるため、一人の責任者の都合だけでなく、まちづくり組織全体で何とか調整できなかったのかという思いがある。

また、区長会との連携について、他のまちづくり協議会では、地域で様々な活動をしている団体の方々

をうまく組織内に取り込み、それぞれの得意分野で協力し合っている事例もある。そうした他地区の方法も参考にすることで、人材の確保や専門的なイベントの企画がしやすくなるのではないか。他のまちづくりの良いところを参考にすることが、土岐地区のまちづくりの活性化やさらなる強化につながっていくと考えている。

さらに、避難所に関する訓練を行いたいというお話があったが、これについては陶町が非常に先進的な取り組みを行っている。実際に町民の方々が体育館に 1 泊して取り組むなど、陶地区は様々なノウハウを持っているため、どのようなやり方が効果的であるかなどを陶町のまちづくり関係者に相談してみるのも良いのではないか。そうすることで、より効果的な避難所訓練ができるのではないかと感じているため、ぜひアドバイスとして受け止めていただきたい。

大湫町コミュニティ推進協議会（以下「大湫」）

〇委員

待合所に設置したキッチンボードに書かれている内容は、写真などで記録を残しているか。描いた内容の記録写真を撮影しておけば、データや思い出が蓄積されていくので良いのではないかと思う。

●大湫

写真としては残していない。当初はホワイトボードにすることも考えたが、費用が高額になってしまうため、施工業者と相談し、安価で代用できるものとしてキッチンボードを採用した。ただ、マジックで書き込んでいくうちに消えにくくなってしまい、保護者の皆さんが除光液を使ってきれいにしていた。除光液よりも安価な消毒用エタノールを試したところきれいに消すことができたため、現在では保護者の方々が毎月キッチンボードをきれいにし、新しい絵を描けるようにしてくれている。それを見るのが私の楽しみの一つであり、コメント欄を見るのも非常に楽しみである。中山道を旅する方がコメントを残してくださることもあった。

〇委員

大湫地区は夢づくり地域交付金事業以外にも様々な事業を行っており、今回配布していただいた資料をゆっくり拝見しようと思う。

●大湫

「広報大湫」の 8 月号は、西分庁舎のラックに配架されているため、ぜひ帰りに持ち帰って読んでいただきたい。最後のページは「区長日記」となっており、区長会長としての 1 か月の思いや町民に伝えたいことを書いている。小さな町ではあるが、これによりコミュニケーションができていると感じている。

〇委員

配付された資料を拝見したが、キッチンボードの上に何か黄色い看板のようなものが取り付けられているのだろうか。

●大湫

夢づくり地域交付金事業で作ったものであることが分かるように看板を設置した。

＜市長コメント＞

立派なバス停ができ、町民の方々にも有効に利用されているということで、この事業は大変成功していると感じている。大湫町は発表にもあったように、夢づくり地域交付金を課題解消に特化し、一点集中で活用している点について前々から高く評価させていただいている。今回は、その課題解消に大きく貢献する事業を行っていただいたということで、改めて高く評価したい。

また、配布資料の「ようこそ大湫」を見ていただければ分かる通り、大湫町は区長会や財産区など様々な支援を受けながら、独自に予算を確保して多様な事業を展開している。理想的なまちづくり活動を実践されているため、他の地区にとっても大いに参考になるのではないかと思う。これからもぜひ頑張っていただきたい。

釜戸地区まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

〇委員　釜戸町民白書製作事業

釜戸町民白書を拝見した。冊子を作るというのは、私も編集した経験があるが、アンケートの集計から始まって非常に大変な作業だったと思う。この金額（予算）で全戸に配布されたというのは本当に素晴らしく、リーダーシップをとられた方の多大なご尽力があったと感じている。素晴らしい取り組みだと思った。

●釜戸

歴史をまとめるにあたっては、若い世代よりも高齢者の皆さんの知恵をいただくため、委員会を立ち上げ、町民の皆様から知恵を持ち寄っていただいた。アンケートの集計については、過去の仕事の経験を活かして担当した。

〇委員　釜戸村誕生 150 周年イベントの開催　釜戸町民白書製作事業

素晴らしい事業をいくつも展開されており、釜戸の住民の皆様も喜んでいらっしゃったのではないかと思う。表記について、19 ページ、20 ページともに事業名は「釜戸村誕生 150 周年イベント開催」と記載があるが、これでよろしいか。

●釜戸

20 ページは町民白書製作事業の誤りである。訂正し、お詫び申し上げる。

〇委員　釜戸村誕生 150 周年イベントの開催

釜戸村誕生 150 周年イベントの開催の事後評価調書について、今後の事業展開は「終了」となっている。夏祭りについてはこれまで伝統的に行われてきたが、これも含めた事業報告となっていたため、夏祭り自体も終了するのか、あるいは今後も別事業で継続される予定か。

●釜戸

「150 周年に絡めて補助金等の予算を使う事業はこれで終了する」という意味であり、夏祭りや文化祭は今後も継続していく予定である。

〇委員　釜戸村誕生 150 周年イベントの開催

夏祭りの補助金等について、予算額は 10 万円のところ、実績は 27 万 5,600 円となっている。増額となった理由を伺いたい。

●釜戸

この補助金は、町民であり実行委員でもあるメンバーが「出店したい」と思った際に、商品購入経費の一部を補助するなどして出店しやすくするためのものである。想定よりも多くの方に出店していただけたため、補助金の総額が増加した。

○委員　空き家活用推進事業　釜戸村誕生 150 周年イベントの開催

空き家対策から連動してゲストハウスへ繋がっていくというお話を聞き、宿泊業の登録等に関する厳しい審査をクリアし、空き家対策と並行して形にしていくという思いが実を結んでおり、非常に素晴らしいことだと感じた。

また、夏祭りでは毎回多くの寄付金を募り、どのようにしたら楽しいイベントになるか工夫されていることがプレゼンから伝わってきた。今回は「帰省‐1グランプリ」と題して、外から帰ってきた方々を対象にグランプリを決められたとのことだが、具体的にどのように決定し、どのように盛り上がりを作ったのか教えていただきたい。

●釜戸

「帰省‐1グランプリ」は 39 歳までの年代について、当日の参加率を競うものである。単に参加者の「人数」でカウントしてしまうと、特定の年度の卒業生が少ない場合には不公平が生じてしまう。そのため、釜戸小学校の卒業生数を母数とし、当日の会場に何人来場したかのパーセンテージ（当日参加率）を算出し、最も参加率が高かった年代をチャンピオンとする方式をとった。盛り上がりの工夫としては、司会の進行に加え、当時の小学校の先生を 3 名ほどお招きし、1～3 位の景品授与をお願いした。小学校卒業後に恩師と再会する機会は少ないため、それが参加の動機づけにもなると考えて実施した。なお、優勝は平成 20 年頃の卒業生の年代であった。

○委員　釜戸村誕生 150 周年イベントの開催

「帰省‐1グランプリ」の対象を「39 歳まで」とした理由は何か。

●釜戸

若い世代がなかなか祭り等に足を運ばないという課題があり、それをどうにか改善したいというのが大きな理由であった。ただ、実際にやってみて 60 代くらいまで対象を広げてもよかったのではないかと感じている。

＜市長コメント＞

委員の皆様からも評価のあった「釜戸町民白書」について、本当に素晴らしい白書を作成していただいた。私自身のことも掲載していただいており、個人的な記念にもなったので一生大切にしたいと思っている。多くの町民にとっても、この 150 年の間に釜戸町にどのような人たちがいたのかを改めて知る、大きなきっかけになったのではないか感じている。

また、大変驚いたのが「住宅宿泊管理業者登録」についてである。こうした資格を自分たちで見つけて取得されたとのことだが、これがないと事業ができないものなのか、説明を伺いたい。

（釜戸）

民泊には 2 種類あり、家主常駐型の民泊（居住しながら 1 室を貸し出す形式）であれば、管理業者の登録は不要である。しかし、家主不在型の民泊（物件に常駐者がいない形式）の場合には、万が一の事態に対応できるよう、管理業の資格を持った者を置くか契約することが法律で定められている。今回はそこを見据えて資格を取得した。

（市長）

瑞浪市はもともとホテルが少なく、宿泊される方々が困っていらっしゃる現状がある。釜戸町のみならず、各地域で現在、移住定住の取り組みや空き家の活用を進めているが、その中には「民泊もやりたい」と考えている方々もいらっしゃる。ぜひ、他の地域にもこうした先進的な取り組みを紹介していきたいため、今後もリーダー的な役割を果たしていただければありがたい。

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

〇委員　日吉町活性化事業

以前、しいたけの菌打ちを行うイベントを企画されてはどうかと提案したことがあったが、今回の報告書を拝見すると、NGK 株式会社（以下 NGK）様との交流イベントとして菌打ちが行われたと記載されており、大変嬉しく読ませていただいた。社員とそのご家族 34 名の参加があったとのことだが、地元住民の参加人数はどのくらいだったのか伺いたい。また、経費の項目を見ると 2,000 円のみの計上となっているが、このイベントの支出はこれだけだったのか合わせて伺いたい。

●日吉

NGK とのコラボレーションは、先方からコミュニティーセンターへお声がけいただいたことがきっかけである。NGK が町内に所有されている森を有効活用したいという会社方針があり、日吉町側がまちづくりの中でしいたけ栽培に取り組んでいることから、「社員が参加できる形で連携できないか、協力していただけないか」という相談をいただいた。昨年に引き続き今年も実施し、社員およびそのご家族 30 名ほどに参加していただいた。これに対し、まちづくり側としては、実際の菌打ち作業のお手伝いやご指導という立場で協力している。費用面については、ほとんどの経費を先方にご負担いただいているため、このような金額となっている。NGK 側としても、しいたけ栽培以外にも様々なプランをお持ちのようなので、こちらとしても協力できることは引き続き連携していきたいと考えている。

〇委員

最後に「事業は人と人をつなぐために」というまとめをいただいた。私も、まちづくりの本質は人と人との繋がりを深めていくことだと考えている。現在、日吉町内では公民館活動やコミュニティ・スクール活動など非常に積極的な取り組みが行われているが、他にもそのような繋がりを示す事例があれば教えていただきたい。

また、実際に活動されている中で「地域の活性化が図れた」と実感されたことがあれば伺いたい。単なる事業評価だけで終わってしまうと継続性が失われかねず、後を継いでいく次世代の人材を育てることが重要である。空き家対策にしても、日吉町を好きになってくれる人を増やしていくことが目的であり、そのためには一部の役員だけでなく、多くの住民が発信できるようになる必要がある。これまでに取り組んできた中で「この方向性でよかった」と感じられる部分など、お気づきの点があれば教えてい

ただきたい。

●日吉

すべての状況を把握できているわけではないが、私の気づいた事例を紹介したい。先日、副会長と一緒に小学校の授業に伺う機会があった。「地域との繋がり」をテーマにした授業の中で、しいたけの菌打ちやしいたけについて子どもたちに教えてほしいという依頼があり、3 年生の児童と一緒に菌打ちを体験した。その際、子どもたちから「しいたけの裏側のヒダは何本あるか」といったユニークな質問が出た。また、その翌週には、地域の方によるカボチャの栽培授業が行われ、「カボチャの種は何個あるか」という問いかけに対し、実際にカボチャを割って数えるなど、学術的ではないものの、地域色豊かで味のある実践的な授業ができたと感じている。

次世代の育成という点では、先日の夏祭りにおいて多くの中学生がボランティアとして参加してくれた。今年は31名ほどに応募していただき、受入体制の都合でお断りせざるを得ないほどの反響があった。春祭りや秋の文化祭においても、中学生や小学生が司会進行など子どもたちができる役割を担い、大人と子どもが一緒にイベントを作り上げる雰囲気が醸成されている。コミュニティ・スクールを中心に、日吉町は児童数が少ない中ではあるが、挨拶運動や標語の作成などにも取り組んでいる。学校や一般から応募を募り、選ばれた作品でのぼりを作成するといった活動も行われており、まちづくり協議会としても資金面での支援は難しい部分があったものの、こうした取り組みを通じて、子どもたちとの交流や地域の絆づくりがうまく進んでいるのではないかと考えている。

＜市長コメント＞

日吉町は、まちづくり推進協議会を中心に町内の各種団体がしっかりと組織化され、それぞれの団体が適切な役割分担を果たされている。そのため、天神窯春まつりや夏祭りなども本当に素晴らしいイベントへと成長しており、訪れた方々が楽しさを味わえるような、安心感のあるイベントになっているといつも感じている。ぜひ今後もこの取り組みを継続していただきたい。

また、先ほど発表のあった「いい移住委員会」の取り組みについても、世帯数が増加するという具体的な成果が表れ始めている。移住者を招いてミーティングを開催するという手法も良い取り組みである。昨今、様々なニュースで耳にするように、田舎の生活に憧れて移住したものの、実際の生活になじめず都市部へ戻ってしまう事例もあると聞く。そうした中、日吉町の「ちょっと手伝い隊」のような取り組みは、移住者の不安を解消し、地域に溶け込むための大変有効な手段である。こうしたサポートをさらに充実させることで、多くの方々が日吉町へ移住するきっかけになればと考えている。市としてもしっかりと応援していきたいので、引き続き取り組んでいただきたい。

また、NGK は日吉町に広大な敷地を所有されており、当初はそこに工場を建設する予定であったが、取得した山林を工業用地に変更することができず、結果として別の場所に工場を建設される経緯があった。しかし、せっかく取得された山林を有効活用したいという思いから、現在様々な取り組みを進められており、初めに養蜂（ハチミツづくり）に取り組まれた。県から紹介された市外の養蜂家の指導を受けながら現在も取り組まれているが、市内にも養蜂家がいらっしゃるため、そことコラボレーションしていただければ市としてもより協力しやすかったと感じている。現在、NGK との打ち合わせ等で取引先の方々が訪問される際のお土産は、そのハチミツだそうである。それほど会社を挙げて日吉の山を活用しようという強い意思が確かにある。そうした企業側からお声がけをいただいたということは大きなチ

ャンスであるため、ぜひ積極的にコラボレーションしていただきたい。市としても企業の力を地域に活かしたいと考えているため、一緒に結びつきを強めていきたい。

≪委員・事務局意見交換≫

〇委員

予算書、実績報告書等における単価や数量などの明細が不足しているため、費用の妥当性が判断しにくい。予算と支出に乖離がある場合（例：予算 1 万円に対し支出 2 万円など）は、その理由が一目でわかるように記載してほしい。

●事務局

各地区に対し、「備考欄」の積極的な活用を依頼する。

〇委員

現状の「何人集まったか」といった行政的・数的な評価だけでは、まちづくりの本質的な成果は見えにくい。活動を継続・発展させるためには、参加者の満足感だけでなく、主催者・実施者側の「やってよかったという達成感」や「地域が良くなった実感」などの思い（教育的評価）を見える化することが重要である。「前年度通りに行う」というルーティン化を防ぎ、より良い事業へ改善する意識を持たせるため、事後評価調書の「意見・感想」などの欄に、主催者側の満足度や地域の変化の実感を記入できるような工夫を取り入れてはどうか。

●事務局

書類上で定量的に捉えきれない部分の難しさはあるものの、数的な実績だけが評価ではないという委員の指摘は重要である。今後、事業を進めたり評価を行ったりする中で、こうした教育的評価の側面も意識するよう、各まちづくり組織に向けて発信・周知を行う。

〇委員

講演会等の謝礼については、金額に対する費用対効果の検証が不可欠である。「毎年やっているから行う」という形骸化した状態を防ぐため、どのような講師を招き、どのような講演を重ねてきたのか、そして住民たちがそれをどのように受け止めたのかという実態をしっかりと把握できるようにすべきである。その上で、市民感覚に立った妥当な金額設定や内容となっているか、今一度検討されたい。

〇委員

自主財源の記載がない地区があるため、適切な記載をお願いしたい。また、自主財源やその他の財源も含めた事業全体の金額を記載し、事業全体の規模に対する交付金の充当額が明確になるようにしていただきたい。

●事務局

各地区に適切な記載を依頼する。

【５　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫　　以上